令和３年度　大社高等学校　学校評価

※生徒・保護者・教職員評価の「評価」欄の基準は肯定的評価の％：A：80%以上　B：65～79%　C：50～64%　D：50%未満、 全体の「総合評価」欄は学校関係者評価委員会の意見等を考慮した総合評価

《教育目標》 郷土に思いをいたし、こころ豊かで、たくましく生き抜く実践力のある人材を育成する

重点目標		担当	評価項目	生徒・保護者評価 生徒評価 評価	生徒評価 肯％	生徒評価 評価	保護者評価 評価	保護者評価 肯％	保護者評価 評価	教職員評価 評価	教職員評価 肯％	教職員評価 評価	評価	自己評価	改善策	学校関係者評価委員会での意見等	総合評価
生徒の主体性と他者と協働する力を育む活動の推進	（1）生徒を主体とする授業の推進 （2）ICTの有効活用	教務部	授業評価や研究授業・公開授業等の実施により、「生徒の主体的・能動的な学び」を育む授業の推進と、ICTを活用した授業の研究・推進がはかられたか。	3.3	92	A	3.1	92	A	2.7	64	C	B	・生徒の主体的・能動的な学びを育む授業の推進と学習評価の研究、ICTの活用は、今後の方向性を決める段階であったことや新型コロナウイルス感染症拡大の影響などで、十分な取り組みができなかった。 ・ICTを活用した授業研究は、出校停止期間に様々な試みができた。	・ICT機器のより効果的な活用のために、研究授業や公開授業などを計画的に行う。 ・学習時間調査実施後の、教科や学年会による結果分析を有効活用し、課題の出し方や課題量の検討を行う。	・中学校との接点をよく考慮したICT教育を行っていくべきである。 ・次年度より一人一台端末が導入されるのだが、その使用に当たり具体的な方策はできているのか。 ・オンライン授業については良い点も改善すべき点もある。より効果的な授業になるように工夫してもらいたい。 ・学力の確保のためには生徒一人ひとりが「主体的」に学習に参画すること。その基盤になる「目的意識」「進路設定」が大切になる、と思う。 ・家庭学習も含め、学習習慣については、生徒自身が学習時間も含めて積極的な姿勢を持って取り組んでいく方策を定着させたい。 ・島根県全体の学力の低さがある。学習習慣が定着していない。小・中・高校のつながりがあり、小学校から自主性をどうやってつけるかが課題である。 ・勉強していく上での目標がほしい。生徒が持つ自己目標が学習への取り組みに現れると思う。自己目標がしっかりと持てるように生徒への支援をよろしくお願いしたい。 ・読書時間が少ないことが気がかりである。これは高校だけではない。中学校でもなかなか文章が読めない。	B
			学習時間調査や課題調査等を教科や学年会と連携して行い、生徒の適切な家庭学習の確保を促すことができたか。	3.3	91	A	3.1	88	A	2.2	39	D	C	・学習時間調査や課題テスト・課題調査等は、教科の意見を取り入れて実施方法の改善をしたり、調査結果の活用を教科に働きかけた。			C
		1年部	生徒が学習習慣を形成し、主体的に学ぶ姿勢を育むような授業の改善や、課題の内容や提示時期を吟味することで、家庭学習を充実させることができたか。		94	A		93	A	3.1	92	A	A	・学習時間調査を基にした学習状況についての情報交換や試験結果の分析・共有は不十分であった。 ・自分で必要な学習に自主的に取り組む姿勢をより育める工夫が必要であった。	・教科担当者会を実施し、情報の交換や共有を行う。 ・学期末などに面談週間を設け、教科担当者が生徒と面談する機会をつくる。		A
		2年部	生徒が学習習慣を確立し．自らの学習課題の把握によって主体的に学ぶことができるように．担任と教科担当が連携して支援できたか。		89	A		83	A	2.9	78	B	B	・家庭での学習習慣が確立できなかった。 ・定期試験や模擬試験等の分析を、学年部としては十分に行うことができず、生徒に対し受験後の振り返り等に関わる助言ができなかった。	・学習時間調査の継続や有朋舘の活用を呼びかける。さらに、スマートフォン等を有効に活用して学習指導を行う。 ・試験結果の分析による強化分野の洗い出しを徹底する。		B
		体育科	専門科目を各事攻種目やその他の活動に生かせるようサポートできたか。	＊		＊	＊		＊	3.3	97	A	A	・「スポーツ概論」が専門科目と各専攻種目をつなぐ役割を果たした。 ・理論や学力の重要性を説明し、学習意欲の向上に努めた。3年生については進路実現とも関連し、学ぶ意欲は高まった。学習に向かう姿勢等については面談を実施し、取り組み姿勢については改善が見られた。	・「スポーツ概論」について、「スポーツ総合演習」や「総合的な探究の時間」との関連を図りながらいっそう充実させていく。		A
			他の人や地域に意識を向ける機会を設定できたか。	＊		＊	＊		＊	3.0	82	A	A	・実習や部活動を通して地域の方と関わり、周囲に気を配れる場面が増えた。一方で、周囲に対する配慮が不十分な生徒もおり、引き続きの指導が必要である。	・コンソーシアムと連携しながら、積極的に外部とのつながりを図っていく。		A
	（3）学校行事・生徒会活動の活性化	総務部 生徒指導部	オープンスクールの充実を図るため、中学校への積極的な呼びかけや実施方法・内容の改善・工夫ができたか。	＊		＊	＊		＊	3.4	99	A	A	・コロナ禍の中で午前と午後にグループ分けしてオープンスクールを実施し、約650名の中学生の参加が得られた。また中学生個々でWebにより申し込みをする方法も定着し、中学校側から高評価を得た。	・分掌や教科等の協力を得ながら、より充実した内容になるように検討していく。		A
	（4）部活動の充実		部活動の意義を共有し、人格形成の場として部活動の推進ができたか。	3.6	94	A	3.2	98	A	3.2	95	A	A	・部活動では優れた大会実績を残す部も多かったが、結果だけでなく部活動を通した人間関係づくりや、人格形成に活かすことができた。	部活動内で起こったトラブル等が大きくならないように、生徒や保護者、教員間での連携を密にしていく。		A
	（5）総合的な探究の時間の充実	教育研究部	「総合的な学習（探求）の時間」において、各学年のねらいを明確化した指導計画を作成し、効果的に実施できたか。	3.5	94	A	3.1	90	A	3.1	87	A	A	・1年生は関係機関の教材を使用して探究に必要な知識・技能を育成しており、授業の振り返りでも目常生活場面で使えたと回答している。プチ探究では興味を掘り下げる機会となり、進路意識を高める機会になった。2年生は地域学習を始める探究が遅くなり中間発表ができなかったが、フィールドワークを実施し地域に出ることで視点を広げることができた。	「総合的な探究の時間」が週の時間割に組み込まれるので、指導計画をより細かく確認する。1年生に対する大学院生のアドバイスは有効であったので、学年を拡大しての実施を検討する。3年生については、活動報告書の作成時間を充実させるとともに、1・2年生との連携も検討する。		A
			図書館だより、授業、朝読書、展示等を通じて、読書や図書館活動を推進することができたか。	3.2	84	A	3.0	82	A	3.4	100	A	A	・図書館だよりを発行し情報発信ができた。コロナ禍ということもあり、集合型のイベントは開催できなかった。本を読む時間を確保するため、図書館に来なくても読書ができる仕組みを追加できた。e-libraryや大社高校の本の検索や予約が生徒のスマホからできるようになり、本に触れる機会を増やせた。学級文庫、出張文庫なども本に触れる機会になっている。貸出冊数は県内の他校と比較しても少なくはない。	読書の機会を設けるため、来年も読書週間を計画する。図書館だよりも発行し情報発信に努めたい。		A
目標達成のため見通しをもって取り組む活動の推進	（1）今未来手帳の有効活用 （2）進路学習の体系化 ・個に応じた進路指導の充実（面談、補習） ・模試結果など各種情報の提供と分析 ・本校卒業生による大学紹介及び進学・就職アドバイス ・自学自習の推進（有朋館の休日開放）	進路指導部	進路希望調査やスタディサポート、進路検討会を通して、生徒の進路志望や思いを的確に把握し、担任と協力してアドバイスや相談ができる体制を整えていたか。	3.4	93	A	3.2	90	A	3.3	100	A	A	・進路希望調査やスタディーサポートは集計結果や分析結果を通して、各学年の進路希望や学習状況の特徴等について、的確に把握して助言する必要があった。 ・3年進路検討会は、進路実現を支援する重要な位置づけの会として、進路指導部・学年会・教科会と協力して実施できた。	・スタディーサポートは第1回の結果に基づき学校別説明会を実施し、学年の特徴を把握する。 ・3年進路検討会は今後も資料や見の進め方について改善を図っていきたい。	・進路指導、進路に向けての方向性の指導や情報提示は、入学時から積極的に支援することが必要だと思う。 ・自分自身の高校時代を振り返ると、「将来どんな仕事に就きたいか」「どのように社会に関わっていきたいか」という視点がまだ少なかったと思う。こうした視点は自身のモチベーションに繋がるので大切にしてもらいたい。	A
			各教科や担任と連携しながら補習や模試、面接・小論文指導を効果的に行えたか。	3.3	90	A	3.0	86	A	3.2	92	A	A	・模試分析結果の提示は遅れた場合もあったが、全体的には比較的スムーズに行えた。 ・面接・小論文の早期指導については、各教科担当者と担任、進路指導部担当者が連携を取りながら適切に指導することができた。 ・3年生の平日補習、夏季特別補習、冬季マーク演習、個別対策講座等、計画的に実施できたが、一部の進路決定者の中には意欲的に取り組めない生徒もいた。	・模試分析の資料提示を迅速に行い、各教科への適切な提案や指摘を行う。生徒へは事後の見直しを徹底させ、学習事項の定着を図り、学力の伸長につなげる。 ・小論文入試の合否追跡等により、指導が生徒の視野の拡大や自己表現力養成に寄与しているかどうか検証する。 ・補習等については、進路決定者に対して実効的な指導方策を検討したい。また、1学期終業式後の夏季補習の在り方を再検討する。		A
		体育科	進路選択のもととなる情報を積極的に提供できたか。	＊		＊	＊		＊	3.2	96	A	A	・体育系進路について説明する機会を増やし、積極的な情報提供を行った。1、2年生はまだ進路意識が低い。	外部とのつながりや探究活動を通して、将来を見通したビジョンを持たせたい。		A
		3年部	進路指導部や教科担当等と連携して、生徒の進路志望実現への適切な支援ができたか。	＊		＊	＊		＊	3.2	99	A	A	・進路検討会に向けての資料作成およびその前後の生徒面談を通じて、担任は生徒の気持ちをしっかりと理解し、生徒は自らの進路目標を真剣に考えていた。 ・進路研修会の学力分析で示された学習アドバイスを学年だよりとして生徒に伝えるなど、教科担当者と生徒がつながるよう支援できた。	進路学習については、3年次のホームルーム活動のさらなる充実が必要と考える。また1・2年次の「総合的な探究の時間」の活動が3年次につながるように、学年部と教育研究部の一層の連携が必要である。		A
		その他		＊		＊	＊		＊	＊			＊	・今未来手帳はもっと有効活用できたのではないかと考えている。（1年部） ・今未来手帳は時間割の記入に活用されているが、その他の活用方法の工夫が必要であった。（教育研究部）	・今未来手帳を日々使わせる指導が必要である。学習時間の記録や進路学習、面談などでの活用場面を増やしたい。（1年部） ・今未来手帳のより効果的な使い方を検討したい。（教育研究部）		＊
多様な価値観を認め、互いに助け合う取り組みの推進	（1）安全で安心して過ごせる学校や寄宿舎運営	総務部 生徒指導部 保健部 舎務部 学年部	PTA総会・評議員会・教育研修会、HP・『社高の風』・『PTA通信』などにより、家庭や地域へ積極的な情報発信をし、開かれた学校つくりが推進できたか。	3.4	92	A	3.3	94	A	3.4	100	A	A	・PTA総会や評議員会等はコロナ禍のため中止し、臨時役員会等で対応した。教育研修会は開催し好評であった。HPやPTA通信などによる情報発信は概ね達成できたが、HPの更新やHPと保護者宛て配布文書との連携など更に改善が必要なところもあった。	・各部署と連携して、よりこまめなHPの更新を実現させたい。 ・各種の情報発信に際して、生徒の人格権や肖像権等の人権に配慮し人権尊重の推進に努めることはできたが、今後も一層留意していく。	・高校生がどのような活動をしているのか分かりづらい状況である。地域に開かれた教育課程といえども発信できていない。もっと情報発信するべきである。 ・小・中学校の運営理事会に出席した際、学力低下などマイナス面ばかり考えていたが、体育祭や学習発表会などの運営を工夫して行っていたことが分かった。コロナ禍の時代ではあるが、マイナス面ばかりではなく、これを機に当事者が工夫をしていく時代であると思った。 ・コロナ禍の中での様々な行事を行うために学校はよく頑張られたと思う。生徒個々へのアプローチがよくできていたのではないか。そのことが生徒の高い満足度として現れているのではないかと思う。 ・学校評価については各立場からの評価が年々上がっている。生徒の自己評価において、自己肯定感が低い生徒へはどのような手立てをしているのか。	A
			危機管理の立場で、人命を尊重し実践に即した防災避難訓練等を実施し、緊急時の迅速な連絡体制を確立することができたか。	＊		＊	＊			3.3	99	A	A	・コロナ禍の中で3学期の防災教育が実施できなかった。1・2学期の避難訓練は一部縮小しながらも実施できた。 ・生徒や保護者への緊急メール送信が他校に比べて遅いとの指摘があった。	・避難訓練後に実施した教員アンケートの結果などを参考にして、より迅速な避難体制の構築に努めたい。 ・緊急時の連絡網をより迅速で効率的なものに更新した。		A
			定期的な交通安全指導により、自転車通学生の通学マナーの向上と、登下校時の事故防止に対して適切に取り組んだか。	3.3	88	A	3.0	84	A	3.1	85	A	A	・定期的な交通安全指導や自転車安全点検を行い、生徒への注意喚起を呼びかけた。安全に関する意識等は高まったはずだが、登下校時の事故が多かった。	・学校のHPやGoogle classroom　などを効果的に活用し、生徒や保護者に交通安全を呼びかける。		A
			全教職員の共通認識のもと、いじめをしない、させない、体制づくりができたか。	3.2	83	A	3.1	88	A	3.2	95	A	A	・人権教育LHRや、「いじめ・学校生活に関するアンケート」を実施することで、生徒一人一人が人権意識を高めるために役立てることができた。	・人権教育LHR、「いじめ・学校生活アンケート」をより効果的なものにするため、学年会等との連携を深める。		A
			清掃活動や安全点検等の取り組みは適切であったか。	＊		＊	＊		＊	3.3	100	A	A	・掃除監督の教員の丁寧な指導が、掃除に対する生徒の積極的な取り組みにつながった。掃除用具の点検・補充については生徒環境委員が機能した。 ・校内の安全点検を実施し、危険箇所の修繕や不要物の撤去などを、事務部と連携しながら迅速に行うことができた。	・安全点検の実施時期が遅れないよう、計画的実施を図りたい。		A
			生徒の心身のさまざまな問題について、保護者、スクールカウンセラーなどと連携して、相談・対応できる体制が整えられていたか。	3.3	89	A	3.1	90	A	3.4	97	A	A	・支援を必要としている生徒について、関係教職員の間で情報共有を図り、個々に必要な対応をいかけた。 ・スクールカウンセラーの来校日の関係で、面接時間調整が難しいケースが生じた。 ・通級指導センター校のインクルーシブ教育推進員と連携し、困難さを抱える生徒や、生徒との関わり方に悩む教員を支援することができた。	・スクールカウンセラーの相談時間が、生徒の希望が多い午後の設定になるよう調整が必要である。また、必要に応じて個別のケース会議への参加も検討したい。 ・次年度より通級指導が本格実施となるため、改めて制度や指導の流れについて周知し、全教員で生徒を見守り支援していく体制を強化したい。 ・相談室の増設が課題である。	・スクールカウンセラーへの保護者からの相談件数が増えているのは頷ける。小中学校でも保護者との相談件数は増加傾向である。不登校傾向の生徒の増加に対してスクールカウンセラーの数を増やせないものか。	A
			寮生のライフスキルが向上するように指導できたか。	＊		＊	＊		＊	3.3	95	A	A	・今年度はA棟、B棟、女子寮の風呂場の改修、男子寮食堂のパテーションなど様々な整備を行った。その都度に自己管理とルールを守ることの徹底を図った。 ・生徒への実態調査アンケートを実施し、その結果をすぐに活かすことができた。毎年ある食事についての保護者からの改善要望の意見もなかった。	・出雲農林高校との共同利用が3年目となる。コロナ禍の寮運営にあっては、良い伝統は残しつつ、現状を踏まえて臨機応変に対応するスピード感が必要となる。今まで以上に生徒、舎監、炊事員、事務部との連携を密に取り、協力体制を構築したい。 ・コロナ感染症対策として、マスクや手洗い、うがいの励行とともに、換気時間や清掃中の消毒、入浴・食事時間とマナー等について徹底していく。	・昨年度まで大学の寮務主任をしており、コロナ対策が大変だった。その点で大社高校の寮でのコロナ対策はきちんとしていると感心する。	A
	（2）計画的な人権教育の推進	1年部	生徒が自他の人権を尊重し互いを認め合う集団となるような支援や、規則やマナーを守る態度を育て、安心・安全な学習環境を整えることができたか。	3.3	91	A	3.1	91	A	3.1	95	A	A	・「アンケートQU」や「いじめ・学校生活アンケート」など各種アンケートの結果を受けて、時期を過さずに生徒との面談や支援をすることができた。保護者との連絡を密にし、きめ細かな対応をすることができた。 ・年度初めに暮らすの人間関係づくりのためのHR活動がもっとあってもよかった。球技大会や体育祭に生徒全員が参加できるようなしくみができるとよかった。	・LHRの時間においてクラス単位の活動時間を増やすことで、クラス内のコミュニケーションがスムーズに行われた日、良好な人間関係づくりの機会となる。特に入学間もない頃はそうした時間が必要と考える。		A
		2年部	自らの言動に気を配り、適切にコミュニケーションをとりながら互いを高め合う集団となるよう支援して、安心・安全な生活環境を整えることができたか。							3.1	92	A	A	・学校生活を通して共に成長できる集団づくりへの支援は概ねできたが、他者への配慮を欠いた言動も見られた。 ・生徒との面談や「アンケートQU」、「いじめ・学校生活アンケート」の結果を踏まえ、生徒情報を把握し理解を深めることができた。	・生徒の様々な問題について、今後も担任や学年部、部活動顧問等多くの教員で連絡を密にしながら、迅速な対応に努める。 ・生徒との面談を増やし、アンケート結果や保健室利用の生徒の状況等を把握して、速やかに学年部や関係部署との連携を図っていく。		A
		3年部	特別活動や部活動等を通じて最高学年の自覚を持ち、お互いを理解し認め合う集団づくりや人間的な成長への支援ができたか。							3.2	97	A	A	・人権ホームルームや卒業前講座等を通じて、多様な価値観の理解につながる学びを深めることができた。 ・一部の生徒ではあるが、周りへの配慮が足りない行動や、様々な進路選択に対してお互いを尊重する姿勢が不十分な様子が見られた。 ・部活動や日々の学校生活に加え、学園祭等の学校行事などに積極的に参加する姿がみられ、生徒たちは互いにコミュニケーションを取り、共に成長できた。	・進路決定の時期が生徒によって様々であり、その点で意識の差があることが一つの要因と考える。生徒それぞれが他者を理解し尊重するよう、生徒と向き合い指導する必要がある。生徒指導部・保健部と学年部の連携はできているので、次年度以降も引き続き生徒の情報共有をしていきたい。		A
社会に貢献する人材の育成	（1）ボランティア活動の推進 （2）総合的な探究の時間の充実（地域資源の有効活用） （3）職業人講話	生徒指導部 教育研究産 進路指導部	ボランティア活動を通して、地域社会に貢献する生徒の育成ができたか。	＊		＊	＊		＊	3.0	78	B	B	・ボランティア活動の推進も厳しい状況であったが、募集のあった活動については周知した。ボランティア活動だけでなく、部活動等の活動を通して奉仕の心を育てることにつながった。（生徒指導部） ・ボランティア活動等に参加した生徒はあまりいなかった。（1・2年部） ・ボランティア活動等は、感染症の広がりの影響もあり活動機会が少なかった。（3年部） ・コロナ禍のため予定していた進路指導行事が実施できなかったこともあり、生徒の進路意識を高め、早期の目標設定を促すことについては課題が残った。	・部活動がボランティア活動の推進に影響を与える場合もある。部顧問を通してボランティア活動の重要性と活動への参加を呼びかけてもらうことを考えている。（生徒指導部） ・ボランティア活動等への参加は、部活動の顧問にも理解と協力をもらいながら、希望する生徒が参加できるような配慮をする。（1年部） ・校外のボランティア活動を生徒に周知させるとともに、校内でできる活動についても、生徒指導部と協力して呼びかけたい。（2年部） ・ボランティア活動等の各種参加型体験については、オンライン開催などの工夫をしながら徐々に平常に近づけていくような工夫をしたい。（3年部） ・コロナ禍のため今年度実施できなかった進路説明会や地元企業ガイダンス等の進路学習の機会を増やし、時機に応じた情報提供を行う。	・ボランティア活動を奨励することは良いことである。自分自身もボランティア団体に入って活動しており、生徒達と一緒に活動してみたい。 ・コロナ禍の影響でコミュニティーセンターの大きな行事ができず、高校生ボランティアに活動してもらえず残念であった。	B